

健康ぷらざ

No.107

企画:日本医師会

ちよつと待って

薬と食べもの・飲みものにも 相性があります

食べもの・飲みものによっては、
薬と一緒に食べたり飲んだりすると、
効能に悪い影響を与えるものがあります。
薬の効果を弱めるだけでなく、
逆に強めてしまったり、
効き目が持続する時間を
短くさせてしまう場合もあります。
かかりつけ医の説明をよく聞き、
指示を守って、薬は正しく服用しましょう。



相性が悪い例

- **グレープフルーツジュースと狭心症治療(カルシウム拮抗)薬**
グレープフルーツジュースに含まれる成分が薬の代謝を阻害するので、血中濃度が上がり、薬の作用が強くなりすぎる。
- **キャベツと解熱鎮痛薬**
キャベツを含む食べものは薬の代謝を早めてその作用を弱める。
- **納豆と血栓症治療薬**
納豆菌が産生するビタミンKは抗凝固薬ワルファリンの作用を阻害することがある。



指導: 熊本大学大学院薬学研究科臨床薬学専攻薬物治療学 教授 石崎 高志

◆待合室等に掲示し、患者さんにおみせください。